

e-ビーフNEWS 北の牧場から

November 2019

十勝は晩秋

初氷や初霜の報が入ってきました。メッキリ朝も寒くなりストーブを焚く日が増えました。週間予報で最低気温がマイナスの日がポチポチ。紅葉も最終章。カラマツが真黄色の輝きからハラハラと葉を落としてきました。

畑の収穫作業も終わりに近づき、丸まるに太った大きなカブ、ビートの収穫が真最中です。でもこの時期の畑は、ドロドロでトラクターや収穫機械のタイヤは団子状態。道路には点々とその泥がこびりついています。その中でも青々とした畑があります。秋まきの小麦畑です。9月に播種した小麦が一冬越すために栄養を蓄えています。

日が昇るのが遅くなりその薄暗い空をV字編隊でマガンたちが飛んでゆきます。またデントコーンを取り終えた畑では、大きな鳥 タンチョウのつがいの子供を連れて落穂拾いをしています。みな冬支度で忙しい日々です。



活動のお知らせ

- 10/23(水)～24日(木) 北海道アニマルフェアスタディーツアー 函館/大沼流山牧場、山田農場～北里大学八雲牧場
11/3(日)～4日(月) 山口県防府市 ふるさと牧場 畜産システム研究会第33回大会 テーマ「放牧を利用した里山の再構築」
11/7(木) 10:00～ 北海道畜産公社十勝工場 北海道肉専用種枝肉共励会
11/7(木) 13:00～ とかちプラザ 第16回資源循環型肉牛生産シンポジウム2019開催

基調講演「農業の持続的な発展とスマート農業」 農研機構 北海道農業研究センター 酪農研究領域長 大下友子氏

話題提供1「有機畜産とICT活用 実践例」 津別有機酪農研究会 会長 石川賢一氏

話題提供2「IoT技術の肉牛生産への活用事例」 (株)デザミス北海道営業所長 佐藤志津哉氏

話題提供3「牛専用種枝肉共励会の成績について」 司会 帯広畜産大学 教授 口田圭吾

■パネルディスカッション パネラー:講演者、消費者代表 ■意見交換会eびーふ 試食会(18:00～) 帯広 ホテル宮崎

■食味試験 (17:30～18:00) 帯広畜産大学 口田研究室主催 ■現地検討会:11月8日(金)午前8:00発 木野e-びーふ牧場ほか

NEWSばか読み

- 関西電力 役員が高浜町元助役から金品受託が横行
10/2:原子力ブラックアウト
- 農林水産省 防護柵、食品残さ飼料化基準の強化など飼養衛生管理基準で改正方針 10/4:根本から
- JA道央(石狩管内)全道一の取扱量/薬用作物の附子(ぶし)収穫ピーク
10/4:作物の多様化
- 標茶町 ホースタウン推進協議会で引退馬の受入れ開始 10/4:活用法
- 農林水産省 肥料取締法の改正 堆肥・化成肥料の混合認可へ 10/5:課題点は
- 関東最大の養豚産地群馬で豚コレラ感染イノシシ確認 10/5:感染拡大着実
- 農林水産省 脱粉の輸入枠縮小 6千t減の14千t乳製品の消費低迷
10/5:消費構造の変化
- 日本 廃プラ処理で「後進国」のレットル 再生率2割に留まる
10/5:循環していない
- 日本の出生率が急減 今年90万人割れ 10/7:少子高齢化の急伸で政策に狂い
- 農林水産省 農福連携で農業者側の助成拡大へ障碍者向け施設整備等
10/7:重要課題
- 政策公庫調査 朝食離れ一段と進む 特に20代3人に一人 10/8:食わせる策
- ノーベル化学賞に旭化成の吉野氏 リチウム電池開発
10/10:日本人が開発したんだ
- 愛知県農業試験場 吸血昆虫防止に黒毛和牛シマウマ塗装が有効
10/11:う～ま
- 豊洲市場開設1年 取扱量拡大 10/12:難産の末

- 豚コレラの名称について議論 古典的熱病 10/12:小手先でなく
- 道内 熊による放牧牛の被害拡大で退牧早まる
10/12:熊に牛肉の味が知られたか
- 小売企業の収益性悪化 セブン、高島屋など店舗閉鎖進む 10/12:街が死ぬ
- サンマ漁不漁深刻 近海もの全滅 10/12:イワシ食べよう
- 魚粉8年ぶりに安値 中国豚コレラ拡大で落ち込み 10/12:何かの警笛
- 関東台風被害甚大 葉物野菜果実薄、生乳廃棄広がる 10/16:天災国家
- 農林水産省 ゲノム編集栽培の情報提供制度を開始
10/16:未解分野だから注意
- 島根大 アレルゲン無い小麦育成を実証 10/17:牛肉も実証して
- 韓国訪日客が58%に激減 九州経済に影響
10/17:政治に左右されない体質に
- 東京オリンピック マラソン・競歩会場を札幌に 10/18:ばんさんばんさん
- セブンイレブン時短容認 10/22:これも時代か
- 生乳生産量19年度上期350万t0.4%減 北海道2%増道外3.3%減 大生産地群馬、千葉、愛知が大減産 離農拡大弱体化鮮明に
10/23:残飯酪農がなくなる
- グーグル 量子コンピューターで超計算達成10/24:時代が進む
- 中国の庶民決済 顔認証が進む 欧米が反発 10/26:セキュリティ管理と裏腹
- 豚コレラワクチン 6件で開始 13年ぶり 10/26:効果期待
- 8月マルキンで肉専用種23道県で発効 10/28:じわり効いてくる
- 農林水産省 全国の食品関連業者に「食品ロス」削減に商習慣見直し依頼
10/29:期限見直し
- 政府試算、TPP12米穀交渉で牛肉最大786億円の減 10/30:事後対応か
- コメ消費半減、人口減少、高齢化、パン食等拡大顕著 10/31:環境保全は如何に

東京直近NEWS (10/31 Shi-REPORT)

ホルス

相場は下げ基調。販売低迷が続いており、ロース、赤身全般に動き鈍い。季節アイテムとして、スネ、ブリスケ等は引き合い強いがそろそろ引き合い強まる時期のカタロースが動かない。冷凍在庫も各社余裕ありとの情報で今後の動向も気になる。関西方面は既に投げ物多く、価格対応品出回っているとのこと。

経産牛

相場は若干上げ下げあるものの、高値安定状況。出回り頭数はやや回復傾向の数値も相場は高値安定。特にガリ枝が高値に張り付いており、挽き材コスト下がらない。赤身中心に引き合いは強いが、一時から見ると緩まった。挽き材は絶対数量が不足しているため、今後も当面は価格維持可能性強い。

今年の台風19号は広い暴風域と遅い速度により広範囲に大きな被害をもたらし、時間が経つにつれて損害の大きさが明らかになりました。日本の国土の67%は森林で、首都圏とその周辺の人口密集地の被害が今回の特徴でした。「これまでに経験したことのない・・・」というフレーズを聞いたたびに、技術の発達で予測の精度は上がっても、対策は厳重な警戒と非難しかないのです。地球温暖化が異常気象の原因とする指摘は説得力を増しました。大震災や首都圏の台風被害を経験した日本は人口密度が高く、被害も大きいのです。国連の気候行動サミットなどの国際社会で温暖化による異常気象の脅威を強く訴え、化石燃料の利用抑制など温室効果ガス削減の具体策を提示すべきです。農業生産は土地に依存しており、今秋の気候変動による自然災害の農業被害額は農水省の推計で1,700億円以上とされています。食糧生産を担う者にとって自然災害は修復に時間を要し深刻です。e-ビーふNews71号の学術情報は以下の通りです。尚、畜産技術のBSE特集は今更感もありますが、それぞれの立場からの総括はわが国の肉牛生産の将来に貴重と考え、今号でも分割紹介を続けます。

1. 畜産技術#770,2019.7

特集3. 牛海綿状脳症のリスク評価(山本茂貴, 内閣府食品安全委)

現在BSEは飼料管理やSRM除去などの適切なリスク管理で世界中殆ど確認されていません。日本国内の健康と畜牛のBSE検査はリスク管理措置の継続を前提に2016年に検査を終了しました。リスク管理の継続がBSE感染牛の発生を防止していると政府機関は考えています。

2. 畜産技術#770, 2019.7

特集4. 消費者から見たBSE対策の評価(鬼武一夫, 日生協品質保証本部)

わが国では北米や豪州などの肥育用ホルモン剤を禁止した欧州で英国がBSE感染牛の肉骨粉を飼料添加して感染牛が世界中に拡大したことが食品安全の認識を変えました。BSEの教訓として科学的根拠を持ったリスク分析体制の整備や消費者のパブリックコメント制度の導入と行政情報の公開性・透明性の確保は大きな前進です。

3. 畜産技術#773,2019.10

国内情報: ドライエイジング牛肉に特徴的な香り成分に関する研究(河原聡, 宮崎大)

昨今ブームである乾燥熟成肉の特徴である香り成分について黒毛和種経産牛ロース肉を1℃の冷蔵庫内で42日間熟成させ、ウェットエイジング処理と比較検討しました。ドライエイジングの肉は柔軟性が低く、揮発性化合物のアルデヒド、ケトン類の生成が増し、特にアルデヒド類はナッツ臭に関与し、アルコール類、ピラジン類と共にドライエイジング肉の評価にポジティブに作用していると思われました。

国内統計DATA: 昨今の食肉ブームを統計で見る(3) 牛肉と肉用牛関連産業(畜技協, 事務局)

食肉消費の増加という食肉ブームの恩恵を受けているかについて牛肉産業で検討しました。和牛も乳用牛もと畜頭数は減少しており、小売価格は上昇して肉牛農家は食肉ブームの恩恵をうけていますが、流通販売では国産牛肉の取扱量は減り、輸入牛肉の販売量が増加しています。国内の肉牛産業全体としては「食肉ブームを活かしていないようです。

国産牛 NEWS

基調講演. 「家畜の福祉と肉牛生産」 全4回シリーズ②

(株)グッドテーブルズ 山本 謙治 社長

キーワードは消費者意識

- 北海道でオーガニック畜産を進めようとしたものの
 - 飼料の問題、品種の問題、消費者嗜好の問題から生産者は及び腰

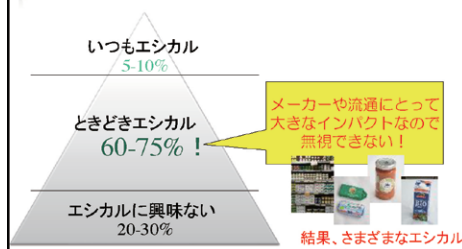


- ただしオーガニック&ナチュラルブームは確実に高まっている
- 最終的には消費者が喜んでエシカル商品にお金を出すようになれば意味がない
- イギリスにおけるキャンペーンの立場の存在とメディア展開がキーとなる

エシカル・コンシューマー (マンチェスター)



エシカル消費を支えるのは普通の人の買物!



いつもエシカル 5-10%

ときどきエシカル 60-75%!

エシカルに興味ない 20-30%

メーカーや流通にとって大きなインパクトなので無視できない!

結果、さまざまなエシカル商品がスーパーに並ぶ。

世界と日本でオーガニック&ナチュラル市場が拡大する

オーガニック&ナチュラル市場は拡大の一途

- 諸外国の有機食品の市場規模は年々増大
 - 欧州: 総売上額3.1兆円、2012-13年増成率8.6%
 - 米国: 総売上額3.2兆円、2012-13年増成率8.5%
 - 中国: 市場規模は2009-13で約3倍
 - 韓国: 有機農産物の出荷量は年々36%増
- 日本の有機食品の市場は欧米より1桁小さい(有機農産物の市場規模: 約1,300億円)
- 米国のオーガニック市場は近年大型量販店が牽引
 - 日本でも有機同業性を承認 (H26~)
 - 長年のオーガニック推進団体が政府と連携し、日本への輸出の増大を模索
- オーガニック・エコ農産物の数値は増産
 - 化学肥料・農薬の5割以上削減を行う特別栽培等(エコ農産物)の取扱量は伸びる
 - 有機農産物(オーガニック産物)については徐々に増加しているが畜産物の割合は低い
- エシカル消費の市場規模(億円)

年	有機農産物	エコ農産物
H22	1270	1270
H23	1270	1270
H24	1270	1270
H25	1270	1270


日本にもオーガニックブームが来ようとしている

- 日本もすでに潜在的には推定4,117億規模。
- 有機JASマークを重視する消費者が増加している。
- オーガニック野菜・果物の購入先として、専門店ではなくスーパーの利用率が向上している
- オーガニック的な外食・中食の利用頻度の増加。
- 若年層「20代・30代男性」の購買意欲が飛躍的に向上。

お待ちしました...
消費者1万人(分母)のオーガニック購買意識調査
「オーガニック白書 2017+2016」
近未来予測

発行: ベジテック/199 編集: オールカラー
定価: 1000円(税別)

2018年3月10日発売 → 申込受付中!



転載・再利用は固くお断りします